

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4074100100		
法人名	医療法人 成雅会		
事業所名	グループホーム 陽だまりの丘	ユニット名	
所在地	福岡県糟屋郡須恵町大字新原14-7		
自己評価作成日	平成25年4月26日	評価結果市町村受理日	平成25年7月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階		
訪問調査日	平成25年5月31日	評価確定日	平成25年6月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>病院と併設しており、緊急時、終末期の協力体制ができています。また、関連施設も併設しており利用者の状況・家族の要望に応じて相談を受け対応をしています。施設内に花壇や畑を作っており利用者が散策するスペースを設けている。畑でできた野菜を収穫したり屋外へ出かけたりして自然に触れ季節感を感じて頂く機会を多くもっている</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設13年目を迎える“陽だまりの丘”は4ユニットあり、中庭には年々大きくなる紫陽花の花が見事に咲き誇り、リビングにも飾られている。愛犬“さくら”も家族の一員で、入居者と職員に癒しを与えてくれている。ホーム長が愛情込めて作られている畑の野菜を収穫し、天気の良い日はベランダで昼食を食べたり、お茶を楽しませている。毎週の大型バスでの買い物も好例で、希望に応じて図書館で本を借りたり、衣類などの買い物に行かれている。個人情報管理や身体拘束、感染症等、法人全体の勉強会も多く、消防署から人形を借りての救命救急の勉強会もホームで行われ、24時間体制でホーム長(看護師)が職員からの相談に応じる体制もできています。職員の離職は少なく、チームワークも良い。車椅子の方が増えている中で移乗時の安全対策に取り組み、ムセが多い方にはミキサー食やトロミをつけるなどの配慮も続けている。排泄支援も含めて身体介護が増えている中、パッドでかぶれる方のために、夜勤時に“さらし(パッドの代用品)”を手縫いする職員の優しい姿も見られており、今後も入居者の思いをゆっくり傾聴できる時間を作って行く予定にしている</p>

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	複合施設としての当法人の理念を共有し、グループホームはその中の誠愛を理念として掲げて、地域貢献に向け努力している	“誠愛”というホーム独自の理念と共に、4つの基本方針があり、3つ目には“地域の中に積極的に参加し開かれたグループホームを目指します”という地域密着の役割も盛り込まれている。4つのユニット個々の特性を活かしながらも、一緒に外出を楽しまれたり、日向ぼっこの時間が重なった時は、一緒に唄う機会も作られている。	25年度は「利用者の対応や接遇の向上を目指す」という目標を掲げている。業務に追われる時もあり、“誠愛”と言う理念や個々の目標を振り返ると共に、“ゆつくりゆったり”と言う時間をいかに作っていくかの話し合いを続けていく予定である。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材購入は地域のスーパー商店などを利用し買い物時は利用者と共に行っている	地域のお地蔵祭りで子供達のお祭りを楽しまれたり、入居者の方も歌を披露している。保育園の生活発表会に参加したり、年末の餅つきの時に園児との交流を楽しまれている。ホーム主催の夕涼み会では、ボランティアの方が踊りを披露して下さい、中学生の職場体験の時は、毎週恒例の買い物に中学生も一緒に行って下さった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	要望があれば地域での会合などで認知症の話などをしていきたい		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において状況を報告しそのときに出た意見をケアの向上に生かせるよう努力している	24年度に開設した系列の小規模多機能事業所と一緒に開催している。家族、区長、老人クラブ会長、須恵町役場福祉課等の方と共に、区長のご協力もあり、民生委員の方も参加して下さい。外部評価結果を報告した時には、災害時の協力要請で地域の担当者を紹介して頂いた。	ホーム行事と合わせて会議を開催する時もあり、その時には入居者、家族も参加されている。今後も更に、家族の方に定期的に参加頂けるように、声かけを続けていく予定である。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き情報交換に努めている	須江町役場の担当者が運営推進会議に参加して下さいするため、入居者の状況や行事等の報告をしている。町役場には主にソーシャルワーカーの方が訪問し、情報交換に努めている。長崎の火災もあり、ホームへの訪問もして下さった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人の研修に参加し理解を深め抑制のないケアに努めている	身体拘束をしないための話し合いを続けている。感情不安定な方もおられるが、行動の理由を把握すると共に、その時の感情に寄り添いながら、対応の仕方を検討している。言葉かけの仕方を工夫したり、その時に応じて職員が交代して対応している。転倒防止のため、居室に畳を敷き、休んで頂いている方もおられる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	グループホーム内で勉強会を開きスタッフの理解を深めていく		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	グループホーム内で勉強会を開きスタッフの理解を深めていく	現在、制度の利用者がおられる。制度に関するパンフレットをホームの玄関に設置しており、主にソーシャルワーカーが入居者個々の制度の必要性の検討を行い、家族からの相談にも応じている。院長も相談に乗って下さり、意見書などを書いて下さっている。今後も、入居時や家族会で制度の説明をしていく予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や家族会に於いて、また必要時説明を行い理解をして頂けるように努めている		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族アンケートを実施し、結果を分析しケアの向上に努めている	面会時にホーム長(看護師)や職員から、家族にお話を伺っている。陽だまりファミリー通信をユニット毎に年4回作成し、写真を掲載して暮らしぶりを伝えている。家族会も年2回行い、家族会の時に家族アンケートの結果を報告すると共に、日々の運営に活かしている。家族からの要望に応じて、職員の名前と写真を壁に掲示するようにした。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各会議に於いて出された意見、提案を運営会に反映させている	法人の勉強会に参加できない状況があった。職員の意見を反映し、2ヶ月に1回の全体会議を毎月開催し、その中でビデオ研修を取り入れる方法が導入された。ホーム全体の年間目標を基に職員個々の目標を作り、ユニット内に掲示している。今後も更に介護力向上を目指し、定期的な勉強会を行っていく予定にしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課や面接を行い各自の意見を把握している		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	常勤・非常勤にかかわらず研修への参加を勧めている	職員の採用時は男女年齢問わず、“仕事へのやる気”を大切にしている。職員個々の能力が発揮できるように、大型バスの運転ができる方、料理や歌、飾り付けが上手な方等、職員個々の特技が日々の業務で活かされている。福利厚生(ホークスの会員・旅行)も充実しており、離職も少なく、職員の協体制度もできている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者の尊厳やペースを守ることを日々話し合いケアに取り組んでいる	理念は誠愛であり、基本方針には、“ご本人の尊厳を大切にし、その人らしい生活が送れるよう支援します”を掲げている。ホーム長は、“ペースに合わせてケアする事”や、“過保護にならないように、ご本人のできる事をして頂く事”を職員に伝えている。院長からは“視野は広く、頭は低く、アンテナは高く”と言う言葉が伝えられている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	業務遂行レベルに於いて評価し各人の力量を把握して、研修への参加を促している		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の勉強会、交流会への参加を今後も行っていきたい		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とコミュニケーションを取り安心して生活して頂けるように家族との連絡やホームでの役割作りなどに努めている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時や面会時など家族に情報や要望など十分聴き又必要時には電話連絡しながら関係作りに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者の状況、家族の要望を伺い今何が必要かを検討している		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力レベルに応じ共に生活することを大切にしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にしながら又家族会などでコミュニケーションを図り関係作りをしている		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近くの公園への花見に行ったり地域の行事に参加している	ご本人から生活歴を伺っている。ご主人が炭坑で仕事をしていた方が、「今日は3番方」等と言われる方もおられ、炭坑の立抗の見学にも行かれた。家族にも生活歴を伺い、アセスメントシートに残している。馴染みの老人クラブの方や民生委員、近所の方が面会に来て下さったり、家族の方とお墓参りや自宅に行かれる方もおられる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性やレベルを把握しながら利用者同士の関わる場を作っている		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ相談支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言葉や言動に目を向けケアに反映できるよう努めている 表出困難な場合は本人本位に検討している	夜勤時や入浴時等に思いを把握するように努めている。家族等との面談も行い、センター方式を活用しながら希望などを把握している。計画送付時に家族の方がお手紙を下される方もおられる。「家族に会いたい」「傍にいてほしい」等の希望が日々聞かれ、ケアをしながらお話をしたり、散歩やドライブ等の気分転換も行われている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を本人や家族から情報を得て暮らしに取り入れ生かせるよう努めている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	午前午後の申し送りにて日々の状態の把握に努めている		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	医師のコメントや看護師のアドバイス 家族の要望を取り入れケアプランに反映させる努力をしている	全職員で情報収集している。ひもときシートも活用し、課題の背景にある原因を把握し、ご本人らしい生活を行うための話し合いをしている。各担当者が計画の原案を作成し、計画作成担当者が必要に応じて修正している。家族にも意見を頂き、留意点を含めたケア内容や、ご本人のできる事も記載されている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録、ケアチェック票などを個別的に記載し見直しに活かしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設病院に協力を得ながら利用者のニーズに対応している 他施設やサービスの紹介も行っている		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域への買い物、地域への行事への参加をしている		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診の対応、協力病院からの訪問診療、希望があれば他科受診の対応もしている	ホーム長が看護師でもあり、24時間体制で職員からの相談に応じると共に、新人職員の医療面の教育も続けている。協力医療機関が主治医の方も多く、2週間に1回、往診を受けている。受診結果は家族の面会時に伝えており、緊急時には急ぎ連絡している。眼科や整形等は、希望に応じて職員が通院介助をしている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り時に看護師が参加し早めの対応に心掛けている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	相談員により病院関係者との情報交換に努めている		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に同意を得ている 早めに主治医との話し合いをもち方向性を決めている	「最期までここで」と望まれる方もおられる。体調に応じて、主治医への連絡・相談を密にしており、観察や記録の頻度を増やす取り組みが行われた。終末期には家族の協力を頂く事を大切にしており、ご本人の居室に宿泊される方もおられる。終末期には、ホーム長である看護師やリーダーが職員への研修を行うと共に、24時間体制で医師やホーム長が駆け付ける体制もできている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時の対応の勉強会をグループホーム内で行っている		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定で訓練を行っている 運営推進会議において地域の方にも訓練に参加して頂いている	スプリンクラーが設置されている。4ユニットあり、出火場所を毎回想定し、安全なユニットに迅速に避難できるように訓練をしている。消火器・消火栓の使用体験も行われ、消防団や区長の方を緊急連絡先に登録させて頂いている。10月には消防署の方も一緒に訓練を行う予定であり、法人全体で食料や水を準備している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助時、誘導時の声かけには特に気を付けて声掛けしている。	理念は“誠愛”。基本方針にも“ご本人の尊厳を大切に～”を掲げ、職員同士の注意も続けている。入居者の不安に寄り添い、その場に応じた声かけや、その場に適した職員に交代して、安心した生活が送れるよう配慮している。優しい職員が多く、ご本人の自尊心を傷つけない事を大切にされている。	全職員でチームケアを行い、入居者の安心に繋がるケアを目指されている。今以上の接遇を職員全員が行えるよう、これからも勉強会を続けていくと共に、日々の業務に追われる時間もあり、今後も更に意識して、入居者の方との会話を増やしていく予定である。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示出来る方には自己決定出来る場面を作ったり、働きかけをしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床・臥床時間はその人のペースに合わせて対応をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪染め・髭剃りの手伝い、散髪時は本人の好みに合わせた対応をしている。洗面所の鏡を車椅子様に低くしたりブラシを置いている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の出来る範囲で一緒に準備片付けをしている。メニューも刺身や寿司等取り入れている。	ユニット毎に献立を作成し、季節の旬な物やお好きな物を献立に盛り込むようにしている。食材の買い出しや、畑の野菜の収穫、下ごしらえ、味見、食器拭きなど、その日の気分も大切にしながら、できる事をして頂いている。職員も一緒に食事をされており、庭の花等を飾ったり、中庭でお茶や食事をされる時もある。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事。水分摂取量をチェックし足りない時には好みの物で補食している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ではないが出来る方には付き添い歯磨きうがい、出来ない方にはスポンジでケアをしている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表でパターンを把握するように努め、トイレやポータブルに誘導介助をしている。	トイレでの排泄を大切にされており、車いすの方が行き来しやすいようにドアを変えられた。トイレの認知が無い方がおられ、適宜声かけをしている。便秘気味の方もおられ、起床時にオリゴ糖入りの牛乳やヨーグルト等も提供している。羞恥心への配慮のため、声かけをさりげなく行ったり、同性介助の対応をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳・食物繊維や補助食品を使用したりして下剤をへらすように個々に応じた対応をしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日と時間は決めているが、本人の希望や状況により適時入浴支援をしている。	週2～3回の入浴となっているが、希望に応じた入浴も可能で、適宜、清拭や陰部洗浄なども行われている。車椅子の方が増えた事もあり、移乗時の安全対策に取り組まれており、入浴介助器具も購入された。入浴時は会話を大切にされており、入浴拒否がある場合も原因を把握し、声かけ等の工夫がされている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の習慣に合わせて就寝・休息に心がけている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状況変化時は報告し対応しているが薬の副作用など理解出来ておらず、今後会議時に話し合いを持ち理解を深めたい。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々のレベルに応じて出来る範囲で役割を持って頂いている、レク・カラオケ・生け花・草むしりなど		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望には添えないが、週3回、バスで買い物やドライブに参加してもらっている。	ホームの中庭に季節の花が咲いており、愛犬との触れあいも楽しまれている。「できる限り外出にお連れしたい」と言う思いがあり、ホーム周辺の散歩や大型バスでの買い物、ドライブ等も含めて、週4日は外出している。初詣は宇美八幡宮に行かれ、新原公園での花見の他、福岡空港での飛行機見学も楽しまれている。隣接する病院の売場で買い物される方もおられる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望や力に応じて所持されている、希望される時には買い物時に購入してもらっている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温湿度計を使用して換気をしたりして室温の調節をしている。生活感や季節を感じてもらえるよう心がけている。	ホーム長がお花が大好きで、ホーム内には四季折々の花や植木が飾られている。リビングは広く、入居者の好みに応じて席の配置が工夫され、ソファの置き方もユニットによって異なっている。家族の方に頂いた歴史あるタンスなども置かれ、家庭的な空間作りにも努めており、中庭や玄関前に椅子を設置して寛げるスペースも作られている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	相性やレベルに合わせ食卓を大小に分けたり、椅子を配置したりしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族に協力も得て使い慣れた物を出来るだけ持って気頂いてる。	約8畳ある各居室には、ベッドや冷暖房が備え付けられている。重要事項説明書にも、“入居持ち込み品は原則として自由です”と書かれており、寝具、愛着のあるぬいぐるみ、大切な仏壇、植木、タンス、テレビ、冷蔵庫等を持ち込まれている。お部屋がわかるように、部屋の入り口には写真や造花が飾られている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	便所には張り紙をしたりドアを車椅子の方が入り易い様に改修した。部屋が解らない方には入口に目印をしたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

事業所名: グループホーム 陽だまりの丘

作成日: 平成 25 年 6 月 28 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。					
優先順位	項目番号	次のステップに向けて取り組みたい内容	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	ご家族アンケートの中に「職員の言葉遣いが気になる」とのご意見があり、今年は『利用者様に安心で心地よい入居生活を送れる』という目標を掲げた	利用者様、ご家族の対応や接遇の向上を目指すため、勉強会や研修への参加を積極的に行う	月1回の全体会議にて接遇の勉強会を実施する職員一人一人が目標を立て、実践していく	12 ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月